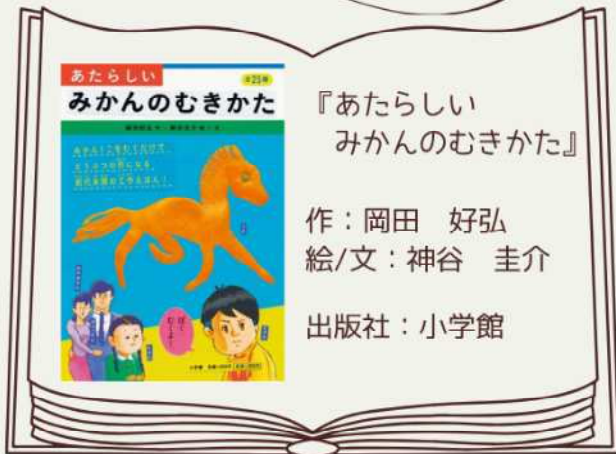


大好き！絵本

初瀬 恵美



朝晩少しずつ涼しくなり秋の気配が感じられるようになりましたね。河内ではみかんの収穫が始まり、嬉しいことに、園児さんのお宅から収穫されたばかりのみかんをいただくようになりました。昼食のとき、みかんの皮をむくとあちこちで、柑橘系の良い香りがひろがり、おいしいみかんをいただきながら、至福のひとつときを過ごしています。なんとも、ぜいたくな時間です。

さて、今季は収穫が始まったみかんをテーマにした絵本『あたらしい みかんのむきかた』をご紹介しますと思います。

タイトルに『あたらしい』とありますが、絵は、昭和感あふれるこの絵本（笑）1970～1980年代頃に発売されたのかな？と思い確認してみると、なんと初版は2010年！21世紀になってから発売された絵本でした（笑）あえて、昭和感を漂わせているこの絵本のセンスに、見事沼ってしまいました。

主人公の名前は、むきおくん。ある年の大晦日、むきおくんが、大好きなみかんを食べずに、じっと見つめ考えていました。このままでいいのだろうか？ だいすきな みかんを ただむくだけで いいのだろうか？ もっとすてきな むきかたは ないものだろうか？。そして、考えた末にあたらしいみかんの皮のむきかたを考えついたのです！

まず初めにむいたのは「うさぎ」でした。お母さんは驚き「すごいわ、むきお。あなたはみかんの かわをむくさいのうがあるわ もっとむきなさい。」とほめて、励まします（笑）

その励ましに応えるかのように、むきおくんは、みかんの皮で干支をむくチャレンジを始めます。すると、妹のむきみちゃんがやってきて、「おにいちゃん わたしも むくわ。」と言って、しれっと牛をむきあげました。妹に触発されて、むきおくんもどんどんむいていきます。干支をめぐる、兄妹のみかんの皮むき対決が第1章。さて、どんな結末を迎えるのでしょうか（笑）

少しシュールで、笑いも満載。それでいて、「みかん1こをむくだけで、どうぶつの形になる、前代未聞の工作えほん」と表紙に説明書きもある通り、まあいみかんを、平面に切り出す画期的な発想は、まさしくアート！なんとも大人心をくすぐる絵本です。

絵本を読んですぐに、難しさ★1つの「うさぎ」に挑戦してみました。そこでまず驚いたのは、みかんを、上下左右から見た時の図面をまねすることの難しさです。簡単そうに見える図面が、球体のみかんに描こうとすると、頭が混乱・えっ?! この図面で合ってる？と疑問の嵐。こういう経験がないからかもしれませんが、予想以上に難しかったです💦 さらに、その線に沿って切り出すのもまた難関。今の時期のみかんの皮は、薄くて、小玉のため、余計に難しいのかもしれませんが。もう少し後の時期の大きめで、少し皮がプワプワしているみかんの方が適しているように感じました（笑）

このみかんの皮アートを紹介してくれている岡田好弘さんは、子どものときから地図が大好きで、まあい地球から平面の世界地図ができてるのが不思議で、興味深く見ていたそうです。「おわりに」の中で、岡田さんは、「『あたらしいみかんのむきかた』というのは、私の心の中にずっと昔からあたためられていたものだったのでしょうね。同じように、みなさんが今もっている興味や願いというものも、たとえそれぞれがどんな小さなことであっても、将来何かの形で大きく花開く可能性があるのだと思います。」と書かれています。素敵ですよ。

私がこの絵本に出会うきっかけをくれたのも、小さい頃から自分の好きな世界を、きわめてきた鈴木俊貴先生でした。鈴木先生は野鳥のシジュウカラが、単語を組み合わせ文を作り会話していることを、世界で初めて証明した方です。動物言語学を開拓し「言葉は人間だけのものである」という従来の定説を覆しました。（著書『僕には鳥の言葉がわかる』（小学館）を出版）その方が、「100年後に残したい本」を絵本縛りで選定したときに、第5位に選んで紹介をしているのを聞いて、興味がわいた絵本です。

実際に手に取ってもさらに魅力的だったこの絵本を今月ご紹介させていただきました。ご興味を持たれた方、ぜひご覧になられてみてください。あらたなみかんワールドに沼るかもです（笑）

